

令和3年度シラバス（国語）

学番30 新潟県立中条高等学校

科目名	現代文B	単位数	3単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	新編現代文B（数研出版）			授業形態	必修
副教材等	新編現代文B準拠ワーク（数研出版） 常用漢字ダブルクリア三訂版（尚文出版） 高校生必修語彙ノート改訂版（桐原書店）				

1 学習目標（科目のねらい）

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 学習計画（時期、単元、学習内容、配当時間、考査等）

月	授業計画と授業の内容	単元	月	授業計画と授業の内容	単元
4	春休み課題テスト（宿題提出）	1	10	2学期中間考査	1
	随想 素直に生きる（森 博嗣）	6		評論 ロボットと人間の未来 （石黒 浩）	8
	評論 失敗談（外山 滋比古）	6		小説 蘭 （竹西 寛子）	8
5	語彙ノート	2	11	語彙ノート	2
	1学期中間考査	1		2学期期末考査	1
	評論 進化と適応（日高 敏隆）	6	12	冬課題テスト（宿題提出）	1
6	小説 花のような人（山本 史緒）	6		詩 未確認飛行物体（入沢 康夫）	4
	語彙ノート	2	1	詩 表札（石垣 りん）	4
7	1学期期末考査	1		評論 建築とは何か （藤森 輝信）	8
	短歌（6首）	5		小説 こころ（夏目 漱石）	10
8	夏休み課題テスト（宿題提出）	1	2	語彙ノート	2
9	小説 彼らが失ったものと 失わなかったもの（森 絵都）	8		3学期期末考査	1
	語彙ノート	2	3		

計97時間（55分授業）

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞きとったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ、定期考査を評価の中心とし、課題テスト・漢字小テスト・宿題などの提出物・出席状況・授業態度等を考慮し、総合的に判断し評価します。

4 担当者から一言

「自分を成長させたい。」「自分をアップデートさせたい。」と願う人にとって現代文Bは必須科目となるものと思います。「読み方の技術」を中心に学習し、多少難解な文章や今まで読んだことのないジャンルの文章も、読めるようになることで、やがては自分の人生になくてはならない支えとなるかもしれません。そんな可能性を一年間、一緒に探っていきましょう。（担当：杉下）

科目名	現代文B	単位数	3単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	新編 現代文B (数研出版)			授業形態	必修
副教材等	・新編現代文B準拠ワーク (数研出版)		・高校生必修語彙ノート (桐原書店)		
	・常用漢字ダブルクリア (尚文出版)				

1 学習目標（科目のねらい）

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 指導計画（時期、単元、学習内容、配当時間、考査等）

月	授業計画と授業の内容	曜日	月	授業計画と授業の内容	曜日
4	* 春休み課題テスト * 春休み課題提出	1	9	評論 ◆『『内的成長』社会へ』上田 紀行 小説 ◆「ひよこの眼」山田 詠美	6
5	随想 ◆「塩一トンの読書」須賀 敦子 小説 ◆「山月記」中島 敦	6	10	◇ 高校生必修語彙ノート	10
	《1学期中間考査》	1 2			3
	評論 ◆「文化人としての色」港 千尋 随想 ◆「弱いつながり」東 浩紀	1	11	《2学期中間考査》	1
6	◇ 高校生必修語彙ノート	6		評論 ◆「胆力について」内田 樹 小説 ◆「朝のヨット」山川 方夫	6
	《1学期期末考査》	6	12月	◇ 高校生必修語彙ノート	6
7	◆ 表現「小論文」	2		《2学期期末考査》	2
	◆ 詩「発車」「永訣の朝」	1	1月	◆ 表現「報告書」	1
8	* 夏休み課題テスト * 夏休みの宿題提出	5		* 冬休み課題テスト * 冬休みの宿題提出 評論 ◆「手の変幻」清岡 卓行	1
		1		◇ 高校生必修語彙ノート	6
				《3学期期末考査》	2
				計96時間（55分授業）	1

3 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞きとったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ、定期考査を評価の中心とし、課題テスト・宿題などの提出物・出席状況・授業態度等を考慮し、総合的に判断し評価します。

4 担当者から一言

筆者の考え方・主張を読み取ることで、自分では体験できないことを知り、心を成長させることができます。「読み方の技術」を中心に学習し、多少難解な文章や今まで読んだことのないジャンルの文章も、読めるようになることで、読書は、これからの自分の人生になくてはならない支えとなるかもしれません。そんな可能性を一年間、一緒に探っていきましょう。

(担当 橋本)